

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年1月30日

上場会社名 第一三共株式会社
 コード番号 4568 URL <http://www.daiichisankyo.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 庄田 隆
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 斎 寿明
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月12日

上場取引所 東 大 名

TEL 03-6225-1126

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	627,620	—	98,053	—	93,184	—	△297,830	—
20年3月期第3四半期	695,849	△4.8	156,775	18.8	166,048	13.6	96,419	24.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	△419.59	—
20年3月期第3四半期	133.47	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第3四半期	1,479,677	825,647	53.8	1,130.64
20年3月期	1,487,888	1,244,512	83.6	1,730.09

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 795,903百万円 20年3月期 1,243,876百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	35.00	—	35.00	70.00
21年3月期	—	40.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	850,000	△3.4	100,000	△36.2	69,000	△59.2	△316,000	—	△448.90

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 709,011,343株 20年3月期 735,011,343株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 5,069,539株 20年3月期 16,043,319株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 709,807,999株 20年3月期第3四半期 722,423,017株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、3ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14項)を使用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

2008年4月1日から12月31日までの当第3四半期累計売上高は、6,276億円（前年同期比9.8%減）となりました。

前年同期間と比較して円高傾向で推移したことに加え、欧州子会社の決算期を変更（2007年1月から3月までの業績（売上高141億円、営業利益18億円、経常利益21億円、当期純利益20億円）が前年第1四半期に加算されています。）したこと、さらには、医薬品事業への集中化という方針のもと、その他事業をグループ外に自立化させたことなどにより減収となりました。

利益面では、減収に加え、積極的な研究開発投資や海外における営業基盤の拡充などにより、営業利益は980億円（前年同期比37.5%減）、経常利益は931億円（前年同期比43.9%減）となりました。また、当第3四半期より連結子会社化したランバクシー・ラボラトリーズLtd.（以下「ランバクシー」）に関し、一時的なれん償却額3,540億円を特別損失として計上したことから、四半期純損失が2,978億円（前年同期純利益964億円）となりました。これは、予め厳格な会計処理を実施することで財務体質の健全性を確保するものであり、当社及びランバクシーの本質的な企業価値が減るものではないと判断しております。ランバクシーのグループ入りは、当社グループの永続的な成長や長期的な経営ビジョン実現のためには必要不可欠であり、複眼経営への挑戦の方針にはいささかの変更もありません。

[所在地別セグメント]

日本の売上高は、4,170億円（前年同期比12.2%減）となりました。

国内医療用医薬品では、高血圧症治療剤オルメテック、カルブロック、排尿障害改善剤ユリーフなどが伸長し、また2008年7月に発売した経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤ロキソニンテープの寄与があったものの、薬価改定の影響に加え、高コレステロール血症治療剤メバロチン、合成抗菌剤クラビットなどの売上げが減少し、売上高は3,281億円（前年同期比6.3%減）となりました。

また、海外ライセンスへの輸出及びロイヤリティ収入では、円高の影響や合成抗菌剤レボフロキサシン等の輸出の減少などにより、売上高は478億円（前年同期比18.1%減）となりました。

ヘルスケア品では、新製品の寄与による新三共胃腸薬の売上増加があったものの、2007年9月に発売したしみ〔肝斑に限る〕改善薬トランシーノの伸び悩みなどにより売上高は371億円（前年同期比6.2%減）となりました。

北米の売上高は、1,418億円（前年同期比0.8%増）となりました。

円高傾向に伴う為替の影響があったものの、高血圧症治療剤ベニカー、エイゾール、2型糖尿病への適応追加を取得した高コレステロール血症治療剤ウェルコール、貧血治療剤ヴェノファーなどが現地通貨ベースでは引き続き伸長したため、増収となりました。

欧州の売上高は、決算期の変更の影響などにより516億円（前年同期比13.6%減）となりましたが、決算期変更の影響額を除いた実質では、オルメテック、骨粗鬆症治療剤エビスタの寄与により、前年同期比13.2%の伸びとなりました。

その他地域の売上高は、169億円（前年同期比15.7%減）となりましたが、その他事業のグループ外への自立化による特殊要因除外後の実質は、12.5%の伸びとなりました。

なお、上記前年同期増減比率は、参考として記載しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における純資産は8,256億円（前連結会計年度末比で4,188億円減少）、総資産は1兆4,796億円（前連結会計年度末比で82億円減少）、自己資本比率は53.8%（前連結会計年度末83.6%）となりました。

純資産の減少は、自己株式の取得や配当金の支払いといった株主還元策の実施及び世界的な金融不安を背景とする株式市場低迷並びに円高傾向にある為替相場の影響に伴う評価・換算差額の減少に加え、ランバクシーに係るのれんを償却したことによるものであります。

総資産においては、純資産が減少する一方で、ランバクシーの株式取得資金の一部に充当するための借入れを実施し、また、同社保有の資産及び同社並びにU3ファーマAGののれんが加わっております。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

2008年10月31日に公表しました2009年3月期連結業績予想との差異は以下のとおりであります。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	840,000	120,000	113,000	65,000	92 34
今回修正予想 (B)	850,000	100,000	69,000	△316,000	△448 90
増減額 (B - A)	10,000	△20,000	△44,000	△381,000	—
増減率 (%)	1.2	△16.7	△38.9	—	—
前期実績	880,120	156,827	169,058	97,660	135 35

(修正理由)

当第3四半期の業績については、前述のとおり、ランバクシーに係るのれんの一時償却3,540億円を特別損失として計上したことから、四半期純損失が2,978億円（前年同期純利益964億円）となりました。2009年3月末に再評価を実施して損失額が変動する可能性はあるものの、通期における連結業績への影響は避けられないものとみられます。

まず、ランバクシー株式取得の影響を除く2009年3月期の連結売上高は、円高の影響、当期中の発売を見込んでいた抗血小板剤エフィエントの承認時期遅れ、景気悪化を背景としたヘルスケア品の計画未達等により、前回予想に対し、300億円程度の減少が予想されます。支出面では、円高に伴う外貨建て経費の減、エフィエントの発売関連費用減に加え、経費節減努力を行ったものの、利益については、前回予想に対し、営業利益で100億円、経常利益で80億円、純利益で50億円の低下を見込んでおります。

一方、第4四半期に合算することとなるランバクシーの2008年10～12月業績は、インド基準からの組替えが未確定であります。現時点の概算では、売上高400億円、営業利益10億円、経常利益は為替差損の影響により250億円の損失、純利益の当社持分は110億円程度の損失となる見込みであります。

また、ランバクシーの連結化ならびに同社の株価下落に伴う会計処理につきましても、現在、2009年3月期本決算での確定に向け、資産と負債の公正価値での評価と配分につき作業中であり、現時点では、10月1日付で暫定的に算出したのれんの償却費110億円および第3四半期に計上したのれんの一時償却による特別損失3,540億円を反映させております。

これらの状況を踏まえ、2009年3月期連結業績予想は、2008年10月31日の公表値に対し、売上高は100億円上回る8,500億円、営業利益は200億円下回る1,000億円、経常利益は440億円下回る690億円、当期純利益は3,810億円下回る3,160億円の損失と見込んでおります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

減価償却の方法として定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 第1四半期連結会計期間より、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。
- ② 第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取り扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。
これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響額は、軽微であります。
- ③ 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号（平成5年6月17日（企業会計審議会第一部会）、平成19年3月30日改正））及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号（平成6年1月18日（日本公認会計士協会会計制度委員会）、平成19年3月30日改正））が2008年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。
また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来どおり賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響額は、ありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	160,781	47,335
受取手形及び売掛金	245,396	166,980
有価証券	165,363	526,805
商品及び製品	97,806	65,947
仕掛品	10,593	14,660
原材料及び貯蔵品	35,155	17,550
繰延税金資産	71,497	52,677
その他	46,325	34,860
貸倒引当金	△9,129	△293
流動資産合計	823,790	926,524
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	137,955	136,821
機械装置及び運搬具（純額）	49,652	33,150
土地	35,041	33,116
建設仮勘定	13,186	2,937
その他（純額）	16,895	15,239
有形固定資産合計	252,731	221,266
無形固定資産		
のれん	115,403	15,403
その他	76,993	75,667
無形固定資産合計	192,397	91,070
投資その他の資産		
投資有価証券	175,150	216,038
長期貸付金	1,086	1,304
前払年金費用	7,033	8,023
繰延税金資産	10,741	5,995
その他	17,067	18,018
貸倒引当金	△319	△352
投資その他の資産合計	210,758	249,028
固定資産合計	655,887	561,364
資産合計	1,479,677	1,487,888

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間末 前連結会計年度末に係る
(平成20年12月31日) 要約連結貸借対照表
(平成20年3月31日)

負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	66,173	46,405
短期借入金	316,546	68
未払法人税等	9,851	18,682
返品調整引当金	878	754
売上割戻引当金	1,341	776
偶発損失引当金	420	226
その他	149,554	127,599
流動負債合計	544,766	194,514
固定負債		
転換社債	46,500	—
長期借入金	16,664	18
繰延税金負債	13,412	26,724
退職給付引当金	10,652	6,781
役員退職慰労引当金	155	115
環境対策引当金	297	1,057
その他	21,580	14,165
固定負債合計	109,263	48,862
負債合計	654,029	243,376
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	105,196	179,863
利益剰余金	671,489	1,025,144
自己株式	△14,548	△43,407
株主資本合計	812,137	1,211,600
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	29,551	48,539
為替換算調整勘定	△45,785	△16,263
評価・換算差額等合計	△16,234	32,276
新株予約権	644	257
少数株主持分	29,100	377
純資産合計	825,647	1,244,512
負債純資産合計	1,479,677	1,487,888

(2) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	627,620
売上原価	150,783
売上総利益	476,837
販売費及び一般管理費	
広告宣伝費及び販売促進費	79,728
給料手当及び賞与	68,225
退職給付費用	5,007
研究開発費	129,162
その他	96,660
販売費及び一般管理費合計	378,783
営業利益	98,053
営業外収益	
受取利息	4,225
受取配当金	3,005
その他	1,926
営業外収益合計	9,158
営業外費用	
支払利息	403
為替差損	6,697
デリバティブ評価損	3,175
持分法による投資損失	270
その他	3,481
営業外費用合計	14,027
経常利益	93,184
特別利益	
固定資産売却益	1,227
関係会社清算益	1,430
貸倒引当金戻入額	6
投資有価証券売却益	0
特別利益合計	2,663
特別損失	
固定資産処分損	2,142
のれん償却額	354,015
減損損失	2,201
固定資産臨時償却費	1,340
投資有価証券評価損	949
偶発損失引当金繰入額	420
環境対策引当金繰入額	196
関係会社株式売却損	15
特別損失合計	361,282
税金等調整前四半期純損失(△)	△265,434
法人税等	32,395
四半期純損失(△)	△297,830

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
 (自 平成20年4月1日
 至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△265,434
減価償却費	28,398
減損損失	2,201
固定資産臨時償却費	1,340
のれん償却額	364,559
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△69
退職給付引当金の増減額(△は減少)	483
前払年金費用の増減額(△は増加)	990
受取利息及び受取配当金	△7,231
支払利息	403
固定資産売却損益(△は益)	915
持分法による投資損益(△は益)	270
売上債権の増減額(△は増加)	△40,024
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,092
仕入債務の増減額(△は減少)	4,409
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△16,148
その他	△1,631
小計	71,340
利息及び配当金の受取額	7,595
利息の支払額	△343
法人税等の支払額	△51,521
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,071
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△3,064
定期預金の払戻による収入	2,758
有価証券の取得による支出	△101,437
有価証券の売却による収入	140,960
有形固定資産の取得による支出	△12,337
有形固定資産の売却による収入	1,853
無形固定資産の取得による支出	△19,722
投資有価証券の取得による支出	△11,017
投資有価証券の売却による収入	7
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△408,411
貸付けによる支出	△303
貸付金の回収による収入	731
その他	14,151
投資活動によるキャッシュ・フロー	△395,831
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	239,941
自己株式の取得による支出	△45,834
自己株式の売却による収入	26
配当金の支払額	△53,330
その他	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	140,789
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10,702
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△238,673
現金及び現金同等物の期首残高	444,334
現金及び現金同等物の四半期末残高	205,660

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）

全セグメントの売上高の合計及び営業利益の合計額に占める「医薬品事業」の割合が、いずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

〔所在地別セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
（１）外部顧客に対する売上高	417,070	141,898	51,663	16,988	627,620	—	627,620
（２）セグメント間の内部売上高 又は振替高	40,652	36,385	16,343	593	93,974	(93,974)	—
計	457,722	178,283	68,007	17,581	721,594	(93,974)	627,620
営業利益	52,207	39,369	1,777	△2,352	91,002	7,051	98,053

（注）１．国又は地域の区分の方法

地理的近接度により区分しております。

２．日本以外の各区分に属する国又は地域

北米 …… 米国

欧州 …… ドイツ、英国、フランス、スペイン、イタリア等

その他 …… 中国、台湾、ブラジル等

３．国又は地域の区分の方法の変更

国又は地域の区分の方法については、従来、「日本」「北米」「その他」の3区分としておりましたが、「その他」地域に含めて表示しておりました「欧州」地域の事業規模が拡大し重要性が増していることから、事業活動をより適切に表現するため、第1四半期連結会計期間より「欧州」地域を「その他」地域から区分掲記しております。

この変更に伴い、従来の方によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の「その他」地域の売上高は67,940百万円（うち外部顧客に対する売上高は51,663百万円）減少し、営業利益は1,772百万円減少しております。

なお、「日本」及び「北米」に与える影響額は、ありません。

[海外売上高]

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	北米	欧州	その他	計
I 海外売上高（百万円）	164,696	67,642	26,190	258,530
II 連結売上高（百万円）				627,620
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	26.2	10.8	4.2	41.2

(注) 1. 国又は地域の区分の方法

地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する主な国又は地域

北米 …… 米国、カナダ

欧州 …… ドイツ、英国、スペイン、イタリア、アイルランド、フランス、スイス等

その他 …… アジア、中近東、中南米等

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の日本以外の国又は地域における売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結会計期間末における、連結子会社であるランバクシー・ラボラトリーズLtd.の株式の市場株価が、当社の取得原価に比べて50%以上下落したため、当社の個別財務諸表において関係会社株式評価損を計上いたしました。これに伴い、同社に係るのれんを特別損失として償却したことなどにより、当第3四半期連結累計期間は、297,830百万円の四半期純損失となりました。

この結果、配当金の支払いと合わせ、当第3四半期連結累計期間において利益剰余金が353,655百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末において利益剰余金が671,489百万円となっております。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年12月31日)
I 売上高	695,849
II 売上原価	181,740
売上総利益	514,109
III 販売費及び一般管理費	357,333
営業利益	156,775
IV 営業外収益	12,167
V 営業外費用	2,894
経常利益	166,048
VI 特別利益	4,105
VII 特別損失	8,956
税金等調整前四半期純利益	161,197
税金費用	64,770
少数株主利益	6
四半期純利益	96,419

(2) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める「医薬品事業」の割合が、いずれも90%を超えているため、第1四半期連結累計期間より事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	475,118	140,804	79,926	695,849	—	695,849
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	53,756	35,121	16,003	104,881	(104,881)	—
計	528,875	175,925	95,929	800,730	(104,881)	695,849
営業費用	412,191	140,901	89,097	642,191	(103,116)	539,074
営業利益	116,684	35,023	6,831	158,539	(1,764)	156,775

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

	北米	欧州	その他	計
I 海外売上高（百万円）	173,422	76,180	31,257	280,861
II 連結売上高（百万円）				695,849
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	24.9	11.0	4.5	40.4

6. その他の情報

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

パーチェス法の適用

1. 被取得企業の名称及びその事業の内容、企業結合を行った主な理由、企業結合日、企業結合の法的形式並びに結合後企業の名称及び取得した議決権比率

①被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 ランバクシー・ラボラトリーズLtd.

事業の内容 高コレステロール血症及び感染症等の領域における後発医薬品の製造・販売及び研究開発

②企業結合を行った主な理由

当社グループは、「革新的医薬品を継続して創出し、提供することで世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」という企業理念の下、2015年(平成27年)ビジョンである「Global Pharma Innovator」実現に向けて、世界の主要拠点において医薬品に集中した事業を展開し、売上高1兆5,000億円、営業利益率25%以上、海外売上高比率60%以上の達成を目指しております。

永続的な企業成長を実現するためには、医療用医薬品事業を先進国市場で拡充するとともに、新興国市場を新たな成長機会として取り込む必要があると判断いたしました。先進国市場におけるハイリスク/ハイリターン従来型ビジネスに加え、新興国市場へのグローバルリーチを拡大し、さらに後発医薬品により先進国市場における薬剤へのリーチを広げた「複眼経営」に取り組むことにより、急速に変化する市場ニーズに先見性的に対応する必要があると考えており、ランバクシー・ラボラトリーズLtd.が当社グループに加わったことは、当社グループの永続的な成長に極めて意義があると考えております。

③企業結合日

平成20年11月7日

④企業結合の法的形式並びに結合後企業の名称

企業結合の法的形式 現金を対価とする株式取得

結合後企業の名称 ランバクシー・ラボラトリーズLtd.

⑤取得した議決権比率

63.92%

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第3四半期連結累計期間における四半期連結損益計算書には、ランバクシー・ラボラトリーズLtd.の業績を含んでおりません。

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

公開買付けによる取得	169,407百万円
創業家一族からの取得	230,970百万円
第三者割当増資の引受けによる取得	85,001百万円
取得に直接要した費用	2,967百万円
取得原価	488,346百万円

なお、一部費用が未確定であるため、暫定的な金額であります。

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれん金額

439,499百万円

なお、上記3.のとおり取得原価の一部費用が未確定であり、また取得原価の資産配分が未実施であるため、暫定的な金額であります。

②発生原因

取得原価が取得した資産及び引受けた負債に配分された純額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しております。

③償却方法及び償却期間

20年間にわたる均等償却であります。

そのほか、当社の個別財務諸表において関係会社株式評価損を計上したことに伴い、当第3四半期連結累計期間において、同社に係るのれんを特別損失として354,015百万円償却しております。